



後ろ足が動かなくなった12歳のコーギーを介助する手塚さん

すいよう 特集

「東京ペットホーム」

終生まで介助 老犬ホーム

行政とも連携 人にも動物にも選択肢を

老犬ホームを存存でしょうか。飼いの高齢化や家庭の事情で飼育難になった犬を有料で終生まで預かり介助する施設です。東京都大田区にある東京ペットホームで「わんちゃん」たちはどのように過ごしているのでしょうか。現場を訪れ実際の生活と今後の課題を聞きました。

(記事 横田和治 写真 佐藤研二)

京浜東北線大鳥居駅から徒歩「わんちゃん」が出迎えてく歩10分、国道沿いにある3階建ての建物に入ると大勢の犬たちが自由に遊んでいる様子が見えます。



自力が動けなくなった19歳のオールドファッションを扱うスタッフ

飼育できない

東京ペットホーム代表で、東京ペット協会会長も務める渡部さんは「以前、東日本大震災をきっかけに同ホームを設立。ペットの同行避難だけでなく、さまざまな事情から立ちどく別れる例もある。譲渡も保健所も会えなくなってしまうばかりか、保健

問題や被災後、飼育することができなくなった犬を飼育して、譲渡もできない。第3の選択肢が必要だと考えたと言います。

「動物の売買が通常になっ話をするのができない人も出てきます。それは無責任な人だけだなく、さまざまな事情から立ちどく別れる例もある。譲渡も保健所も会えなくなってしまうばかりか、保健

所だったら殺処分の可能性がたかです。だからさまざまなホームなんです。東京ペットホームでは、敷地やスタッフの人数から預かれる犬は20頭ほど決められています。現在は14頭が終生預かりです。預けた後も飼い主が頻りに来たら訪れず。

「切」だと言います。「犬はしゃべれないの自覚を持ってホームが集まる行動をしています。おむつ交換はもういい、自力食べるとかできない子には、口ずかすのを手伝ってあげたり、水分が足りない場合は強めに水を飲ませたり。散歩もあつたところは、散歩を合わせた方がいいです。」

「東京ペットホームでは行政ともつながりが、大田区の社会福祉協議会や地域包括支援センターと連携を取ります。預かり理由の多くは飼い主自身が高齢化や入院で飼育困難になる例や、他界してしまう例があるからです。渡部さんは言います。



ブラッシングにうっとり



ホームでくつろぐ老犬たち
レイアウト 青藤和音



渡部帝さん(左)と手塚友里さん

「老犬ホームが必要なら、無料の保護センターが必要なら、ささまたたと思っていますが、少しでも不幸な犬を減らすためには環境整備が不可欠です。都など連携して、いろいろな支援を講じていきたいと思います。以前私たちの活動が安易な飼育放棄を助長するという指摘がありましたが大勢の人は選択肢です。ここでは何人かのスタッフと大勢の「わんちゃん」との新しいコミュニケーションが生まれます。こういう選択肢が人にも動物にも用意されていると、このことを知ってほしいです。」

「わんちゃん」の一日

05:00~
スタッフ1人・犬は個室
健康チェック・個室清掃 e t c .

08:00~
スタッフ3~4人・犬はフリースペース
(朝食後)
朝食(1頭ずつ異なる)・介護(食事介助・投薬・皮下点滴)・散歩(1頭ずつ) e t c .

10:00~
スタッフ3~4人・犬はフリースペース
介護(歩行訓練・寝たきりケア)・グルーミング・施設清掃・通院・面会対応 e t c .

20:00~26:00
スタッフ1人・犬は個室
夕食(1頭ずつ異なる)・介護(食事介助・投薬)・個室清掃・散歩(1頭ずつ)・健康チェック e t c .